

第 63 回広島大学医学部産科婦人科学教室同門会総会

I-9

広島、2017.2.12

着床前診断における次世代シーケンサーの有用性

中岡義晴

IVF なんばクリニック

均衡型染色体構造異常を持つ習慣流産患者の着床前診断 (PGD) には **array comparative genomic hybridization (CGH)** 法を用いて行っている。CGH で染色体解析が不十分であった胚を認めたため、次世代シーケンサー (NGS) を用いて同一保存検体を再解析した。解析不十分な胚に対しても NGS は可能としたことから、より NGS が PGD に有用であることが分かった。